

第2学年 英語科学習指導案

水沢市立南中学校

日時 平成17年度11月1日(火) 5校時

学級 2年3組 男子18名 女子20名 計38名

場所 2年3組教室

指導者 TE 遠藤 芳 TO 小原千依

1 単元名 Unit 5 A Park or a Parking Area ?

2 単元について

(1) 教材観

本単元ではある事故をきっかけに「公園を維持するか、駐輪場にするか」という議論が主題となる。Starting Out ではデミから和子に妹のミキがけがをして入院したのでいっしょに見舞いに来てほしい、というファックスが届く。Dialog では自転車が倒れてけがをした事故の原因をめぐり、デミと健が「新しい駐輪場必要だ」と対話を交わしている。Reading for Communication では新聞に「公園をつぶして駐輪場にする」という市の決定が掲載され、それを読んだ市民から反対意見の投書が寄せられる。

言語材料としては Starting Out では if 節「(もし) ~ならば」を用いた文、Dialog では that 節「~ということ」を用いた文、Reading for communication では when 節「~ (の) とき・・・」、because 節「~なので・・・」と各種従属接続詞がまとめて扱われている。また 5W1H の明確な文章を読んで理解したり、書いたりする題材も、取り上げられている。従属接続詞を用いながら「事実を伝える」「意見を述べる」という言語活動が可能である。

学習指導要領には「教材選定の観点」として、(2) ア 多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。という観点があげられており、本単元はこれに該当する。「公園か、駐輪場か」のようなジレンマは、多くの今日的課題に共通する困難であり、この種の問題について、賛否の論点を整理し、解決法を模索し、自分の意見を考える態度を養う機会にさせたい教材である。

(2) 生徒観

全体的に落ち着いて学習に取り組むことができる生徒達である。挙手発言などの積極性には欠けるきらいがあるものの、教師の指示のとおり活動するなど、やるべきことはやる授業態度である。互いの交流にも遠慮がちな面があるので、授業のペアワークなどをより良い関係づくりに生かしたいものである。やや集中力に欠け、落ち着きのない男子生徒が3名ほどいるが、学習内容に興味を示し彼らの発言によって授業が進行する場合もある。単語の読みや、意味、基本文・本文の音読など基本的事項を身につけさせ充実感を与えながら学習させていきたいと考える。また今年度は音読によって自己表現の基礎力を養いたいと考えているが、音読に対する生徒の考えは以下のとおりである。

音読に関するアンケート結果

Q1. 授業中の音読について

よく読んでいる 43% 読んでいない 37%

あまり読んでいない(読めない) 14% 読まない(読めない) 6%

Q2. 音読は「英語を話したり書いたりする」ことに役立つと思いますか。

思う 60% やや思う 26% あまり思わない 11% 思わない 3%

音読レベルの推移

レベル	内容	4月	7月
1	英文全文にカタカナがふってある	0	0
2	難しい単語にだけカタカナがふってある	8	1
3	英文だけで読むことができる	21	11
4	日本語を見て英語を言うことができる	3	6
5	暗唱で言うことができる	5	19

80%以上の生徒が音読に熱心に取り組んでおり、音読で身についたことが自己表現に役立つと考えている。音読レベルの4月と7月の変化を見ても、力をつけようと取り組んでいる様子が見える。音読にあまり取り組めない生徒には、読めないという理由も含まれており、新出単語や本文のリ

ピートなどの基本練習を集中してやらせる指導や、フォニックス的指導をまじえながら読めるようになる方法を確立させていきたい。

また、2年生になってから週3回の授業すべてをTTでおこなっている。習熟の差の大きさや、2人の教師でより多くの支援・英語活用の場面を設けられることからTTは有効であると考え。生徒自身にも、緊張感があつて集中が高まる、質問しやすいなど好意的に受け止め学習に生かしていこうとする姿勢がある。

TT 授業に関するアンケート

質問	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
勉強の内容がよくわかる	37%	42%	17%	2%
進んで手を挙げて答えている	17%	37%	31%	14%
先生や友達の話をよく聞いている	40%	42%	14%	2%
自分で学習課題を解決しようとしている	31%	42%	20%	5%
わからない事など先生に聞きやすい	34%	34%	20%	11%

(3) 指導観

本英語科のテーマは昨年度に引き続き「表現力を育てるための音読指導のあり方」である。まず教科書に書いてある単語や文章を読んで音声化し、口頭練習繰り返すことで英語表現になじむ。容易に口頭表現できる文章はフォニックスの手法で書く表現にもつなげることができる考える。

本時では自己表現をするためにフラッシュカードを用いた練習によって新出単語の読みと意味を覚え、チャンク読みやリード&ルックアップで本文の音読練習をして暗記に近づけ、基本文を様々な言葉に置き換えて自分なりの表現とする、という手順をとる。生徒にも音読によって教科書の表現から学び、それを自己表現に結びつける方法が身につけてきている。また自分の表現したいことを相手に伝えるためには、声の大きさ・アイコンタクト・ジェスチャーなどに配慮しなければならない。

本授業でもじっくりと本文を音読することで内容理解をさせ、覚えた基本文を活用して書いたり話したりする自己表現活動をさせていきたい。

3 単元の指導目標と評価計画（4時間扱い）

単元の指導目標:身近な「地域の問題」を扱いながら、「事実を伝える」「意見を述べる」という言語活動ができる

	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現能力	理解能力	言語や文化についての 知識・理解
聞くこと	・相手を見ながら話を聞こうとしている。		・まとまった文の内容を聞き取ることができる。 ・質問や依頼など相手の発話を理解することができる。	
話すこと	・相手を見ながら話そうとしている。 ・間違いを恐れず自分のことを話そうとしている。	・話したいことを相手を見て伝えることができる。 ・相手の話を理解して、応じることができる。		・if that when because節を用いた文を使って正しく話すことができる。
読むこと	・目標を持って、音読しようとしている。 ・内容を考えながら読もうとしている。	・相手に伝わるように音読することができる	・書かれた内容を読み取ることができる。	
書くこと	・教科書の文を使って学習したことを書こうとしている。	・伝えたいことを読み手に伝わるよう正しく書くことができる。		・if that when because節を用いた文を正しく書くことができる。

時	学習内容	観点領域	評価場面(方法)	評価規準	具体の評価規準		C 努力を要する生徒への支	
					A	B		
Starting Out	1	・ファックスから要件を読み取る。・if節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現する。	言語理解〈読む〉	・本文の内容について質問に答える。(反応)	・ファックスの文の概要を理解することができる。	・本文に関する英語の質問に答えることができる。・If節を用いて、自分の考えを相手を見て話したり、聞いたりすることができる。	・本文に関する質問に日本語で答えることができる。・If節を用いて、他の言葉を入れ替えて話すことができる。	・単語と基本文の意味を確認する。 ・If節の構造や意味を理解し、基本文の音読練習をさせる。
	2	・女の子の事故の原因をめぐるデミと健の対話文を読んで理解する。・that節(目的)を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話をする。	言語理解表現〈読む話す〉	・本文の内容について質問に答える。(反応) ・that節の肯定文と疑問文を用いて、尋ねたり答えたりする。(発表)	・対話文の概要を理解することができる。 ・that節を用いた、肯定文、疑問文と応答文が言える。	・対話文に関する英語の質問に答えることができる。 ・that節を用いて、自分の考えを相手を見て尋ねたりたり、答えたりすることができる。	・対話文に関する質問に日本語で答えることができる。 ・that節を用いて、他の言葉を入れ替えて話すことができる。	・単語と基本文の意味を確認する。 ・that節の構造や意味を理解し、繰り返し基本文の音読練習をさせる。
Dialog	1	・新聞記事を読んで、内容を理解し、音読をする。 ・when節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現する。	言語理解表現〈読む書く〉	・本文の黙読・音読を通して、概要を読み取る。(TorF) ・本文の音読評価(評価カード) ・when節を使った文で表現する。(ワークシート)	・本文を読んで、概要を理解することができる。 ・内容を理解して本文を音読することができる。 ・when節を理解し、表現することができる。	・本文を読んで、概要をTorFで答えることができる。 ・適切な声の大きさ、発音、イントネーション、強弱を意識して音読することができる。 ・when節を用いて自分に関する文を作ることができる。	・本文を読んで日本語で説明することができる。 ・本文をカンマ、ピリオドで区切り、音読することができる。 ・when節を用いて、他の言葉を入れ替えて文を作ることができる。	・単語と基本文の意味を確認する。 ・when節の構造や意味を理解し、基本文の音読練習をさせる。 ・基本文を暗記し、書く。
	2	・投書の意見を読んで、内容を理解し、それを参考にして、簡単に自分の意見を述べるができる。 ・because節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現する。	言語理解表現〈読む書く〉	・本文の黙読・音読を通して、概要を読み取る。(QandA) ・本文の音読評価(評価カード) ・because節を使った文で表現する。(ワークシート)	・本文を読んで、概要を理解することができる。 ・内容を理解して本文を音読することができる。 ・because節を理解し、表現することができる。	・本文を読んで、概要をQandAで答えることができる。 ・適切な声の大きさ、発音、イントネーション、強弱を意識して音読することができる。 ・because節を用いて自分に関する文を作ることができる。	・本文を読んで日本語で説明することができる。 ・本文をカンマ、ピリオドで区切り、音読することができる。 ・because節を用いて、他の言葉を入れ替えて文を作ることができる。	・単語と基本文の意味を確認する。 ・because節の構造や意味を理解し、基本文の音読練習をさせる。 ・基本文を暗記して、書く。
Reading for Communication		1	言語理解表現〈読む書く〉	・本文の黙読・音読を通して、概要を読み取る。(TorF) ・本文の音読評価(評価カード) ・when節を使った文で表現する。(ワークシート)	・本文を読んで、概要を理解することができる。 ・内容を理解して本文を音読することができる。 ・when節を理解し、表現することができる。	・本文を読んで、概要をTorFで答えることができる。 ・適切な声の大きさ、発音、イントネーション、強弱を意識して音読することができる。 ・when節を用いて自分に関する文を作ることができる。	・本文を読んで日本語で説明することができる。 ・本文をカンマ、ピリオドで区切り、音読することができる。 ・when節を用いて、他の言葉を入れ替えて文を作ることができる。	・単語と基本文の意味を確認する。 ・when節の構造や意味を理解し、基本文の音読練習をさせる。 ・基本文を暗記し、書く。
Reading for Communication		2	言語理解表現〈読む書く〉	・本文の黙読・音読を通して、概要を読み取る。(QandA) ・本文の音読評価(評価カード) ・because節を使った文で表現する。(ワークシート)	・本文を読んで、概要を理解することができる。 ・内容を理解して本文を音読することができる。 ・because節を理解し、表現することができる。	・本文を読んで、概要をQandAで答えることができる。 ・適切な声の大きさ、発音、イントネーション、強弱を意識して音読することができる。 ・because節を用いて自分に関する文を作ることができる。	・本文を読んで日本語で説明することができる。 ・本文をカンマ、ピリオドで区切り、音読することができる。 ・because節を用いて、他の言葉を入れ替えて文を作ることができる。	・単語と基本文の意味を確認する。 ・because節の構造や意味を理解し、基本文の音読練習をさせる。 ・基本文を暗記して、書く。

4 本時の指導

(1)目標

- ア 基礎・基本の重点 ・接続詞 **When** を用いた基本文を暗記し自己表現することができる。
- イ 課題解決を図るための指導過程の工夫 ・基本文を含む本文を様々な方法で音読練習しながら暗記し、自己表現につなげることができる。
- ウ 評価を生かした指導の工夫 ・継続した音読評価により意欲をもって音読練習をし、基本文を含んだ表現を身につけることができる。
- エ 定着を図る工夫 ・音読練習で基本文や他の表現を覚え、書いたり話したりすることができる。

(2)展開

段階	学習過程	学習内容・学習活動	指導上の留意点		評価
			TE	TO	
導入 15	Warm up 課題の設定	1 復習 ・ New words 本文音読 ・ ペアで音読評価 ・ TorF	・ 単語カードで復習させる (窓側3列) ・ 暗記できるよう練習させる。 ・ 音読で内容理解ができていないか確認する。	・ 単語カードで復習させる (廊下側3列) ・ レベル1・2の生徒に対する支援(個別練習・ふりがなカード配布)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 声の大きさ強弱アイコンタクトに留意して音読をしているか。(表現) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">自己評価カード</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">観察</div>
		When を使って自分のことを表現しよう			
展開 30	課題の追究	3 文法の確認 ①例題練習(5') ・ 動詞を入れ替えながらパターンプラクティス	・ 紙版書で簡潔に確認する。 ・ 基本文は暗記させ、作文させる。	・ パターンプラクティスのリード	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題に対して積極的に取り組もうとしているか(コ関心・意欲態度) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">観察</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ワークシート</div>
	課題の解決	②自分のことに置き換え英作文をする。 ・ 完成したら発表練習 隣り斜めペアで(15') 4 発表 ・ ペアの会話形式で発表していく。 ・ 発表を聞きながらメモする	・ ワークシートを配布し、作文の指示をする。 ・ 声の大きさアイコンタクトに留意させる。 ・ 発表者の発言をよく聞かせる。	・ 理解不十分な生徒の英作文支援 ・ 会話練習の支援 ・ 発表者への支援(読み方・声の大きさ)	
終末 5		5 自己評価 6 次時の予告	・ 学習したことを確認する。 ・ 本時の評価をし次時につなげる。		

Unit5 A Park or a Parking Area? Reading for communication

Class 2- No. Name: _____

1. TorF

① _____

② _____

③ _____

/3

2. 接続詞 When を使って自己表現しよう。

A: What do you do when you have time?

(your name)

:

_____ when I have time.

終わった人は次にトライ

_____ when I got home.

3. 聞きながらメモをしよう。

Name	したこと

4. 自己評価 あてはまるところに○をしよう。

- ① 今日の学習に意欲的に取り組むことができた。(関心・意欲) Yes No
- ② When を使って作文することができた。(言語) Yes No
- ③ When を使った文で自分のことを言うことができた。(表現) Yes No
- ④ 相手の発表をよく聞くことができた。(理解) Yes No

学習したことは何ですか。